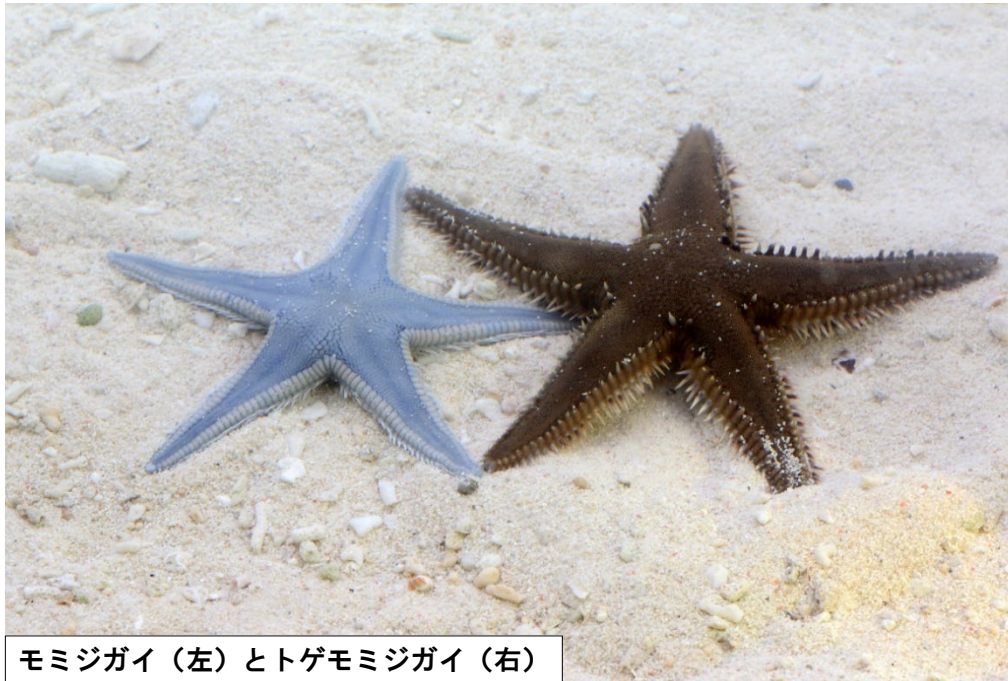


今月の
いいね!

海の中の紅葉



モミジガイ（左）とトゲモミジガイ（右）

【名前】

モミジガイ・トゲモミジガイ（モミジガイ目モミジガイ科）

【すむ場所】

モミジガイ：北海道から九州

トゲモミジガイ：房総半島・相模湾以南

【大きさ】（体の中心から腕の先までの長さ）

モミジガイ：7cm

トゲモミジガイ：15cm

【当館で見られる場所】キラキラ☆ラグーン

【特ちょう】

「カイ」と名前っていますが、れっきとしたヒトデの仲間です。モミジガイは、砂もぐりの達人で、水中の砂の上に置くと器用に潜っていきます。

【担当学芸員から一言】

モミジガイは漢字で書くと「紅葉貝」と書きます。紅葉狩りならぬ紅葉貝狩りに博物館に来てください。お待ちしております（Y.I）

トピック

貝殻でクリスマスツリー飾り

当館では、毎年クリスマスの時期になると玄関で海の生物で装飾したクリスマスツリーでみなさまをお出迎えしています。今年は、アサリの貝殻からオーナメントを作製しました。皆さんもオリジナルオーナメント作りには是非挑戦してください。

～作り方～

- ① アサリの貝殻を2つにし、それぞれ木工用接着剤で金色や銀色の折り紙を貼り付けます。
- ② 内側の淵に木工用接着剤を塗り、コーティングされた針金（メタリックタイ）を輪にして挟み込んで貼り付けます。



ツリーに飾ろう!

あれこれ

アカボウクジラ骨格標本作成 —骨の掘り出し—



アカボウクジラの頭骨



酷暑の中での掘り出し作業

アカボウクジラ骨格標本の作製作業が順調に進んでいます。今回は、その骨の掘り出し作業をご紹介します。

2019年9月17日、静岡市の久能海岸に上がった個体を博物館敷地内に穴を掘り、ネットで包んで土の中に埋めました。それぞれの骨には番号の札を取り付け、掘り出した後にどの部分か分かるようにしました。

クジラの骨を地中に埋め、肉をきれいに分解させるには約1年半～2年の時間が必要とされています。しかし、それぞれの土や土の中に棲む生物の種類により、その時間には大きな違いがあります。分解する力が強いと骨までボロボロになってしまいます。埋めてから10ヶ月後の7月に骨の状態を確認することを目的として、一部を掘り出しました。すると予想以上に分解が進んでいたため、当初の予定よりも早くすべての骨を掘り出すことにしました。

2020年8月17日、本学海洋学部海洋生物学科の大家宏先生と大学院生、環境社会学科の吉田弥生先生、水産学科の秋山研究室の学生、博物館スタッフの計10名で掘り出し作業を行いました。酷暑と闘いながらの大変な作業でしたが、大きな問題もなく無事に掘り出すことができました。掘り出した骨は、水洗いや薬品洗浄し、保管できる状態にしなければなりません。現在、洗浄作業が順調に進んでいるため、12月上旬に当館にて公開予定です。(S.T)

コラム

マガキガイ —水槽のお掃除屋さん—

マガキガイは、ソデボラ科に分類される巻貝の一種で、主に西太平洋の熱帯・亜熱帯海域の砂地に分布します。殻の大きさは6cmほどで、食べられる部分は多くないものの、食用になり、塩ゆですると身は甘みと歯ごたえがある美味しい貝です。身を殻の中から出すときは、身についたフタをつまんで引っ張るとスルスルと上手に取り出せるのですが、このフタの形が特徴的です。まるで刃先がギザギザしたカマや刀のような形をしています。マガキガイを持ち上げるとこのフタを振り回して逃げようしますが、その様子から「チャンバラ貝」と呼ぶ地方もあります。

殻の間からは足やフタだけでなく、カタツムリのような眼や触覚、さらには掃除機のように長くのびた口も観察できます。特に口は水槽の底でモソモソと動かす様子を観察できますが、これは歯舌という器官を使って、砂や岩の表面についたコケなどをこすり取って食べているためです。マガキガイはこの口で、水槽の底砂をきれいにしてくれるため、水槽のお掃除屋さんとして私たちを助けてくれます。当館でも、「きらきら☆ラグーン」や「くまのみ水族館」コーナーのいくつかの水槽にはマガキガイが入っていますので是非探してみてください。

これから年末にかけて大掃除の季節となります。水槽を健気に掃除してくれているマガキガイたちを見習って、大掃除に励もうと思います。(S.A)

※歯舌(しぜつ): 口にある細かい歯が並んだ器官



マガキガイ



マガキガイのフタ

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。